

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和8年度 第1回 岩倉市青少年問題協議会
開催日時	令和8年6月23日（火）午前10時から午前11時30分まで
開催場所	岩倉市役所7階 会議室7
出席者等	久保田会長、松本委員、富田委員、牧委員、大藪委員、丹羽委員 堅田委員、鈴木委員、鬼頭委員、水越幹事 欠席者：森委員 事務局：教育長、教育部長、生涯学習課長、生涯学習グループ長 主任、再任用職員
会議の議題	議題 （１）副会長の選出 （２）令和8年度岩倉市青少年健全育成基本方針（案）について （３）令和7年度青少年に関する生活実態調査報告書について その他 （１）情報交換 （２）その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の会長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
会議に提出された資料の名称	資料1 岩倉市青少年問題協議会委員名簿 資料2 令和8年度岩倉市青少年健全育成基本方針（案） 資料3 令和7年度青少年に関する生活実態調査報告書 資料4 岩倉市青少年問題協議会条例・岩倉市青少年問題協議会専門委員会内規
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	なし
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 委嘱状交付

2 あいさつ（久保田市長）

3 議題

（1）副会長の選出

教育委員の松本委員が副会長に選出される。

（2）令和8年度岩倉市青少年健全育成基本方針（案）について

事務局から資料2により説明

丹羽委員 「2今を生き抜く力の養成」（1）学力の向上にある「言語能力や情報活用能力など学習の基盤となる力の育成」とは具体的にどのような学力向上を目指すのか市の方針を聞きたい。

教育長 これは学習指導要領で重視していることです。言葉の力は学力の基本ですし、これだけ情報化が進んでいるので、タブレットを上手に活用する力、情報に流されないリテラシーが重要視されています。そういった根幹となる力、これからの予測困難な時代に柔軟に対応できる力の基となる力として、単なる知識ではなく、ネットワークで結びついた、生きて働く知識、高度に概念化した知識を教育現場で養っていくべきという国の方針を表したものです。学校現場では、授業の中で単に受験に役立つ知識・技能だけでなく、それを基にして、今の社会情勢をどう考えるべきかなど様々議論したり、生きて働く知識を身に付けたりしていますので、そのような授業の構え・様相を表現したものだと理解していただければと思います。

久保田会長 特に外国籍の子どもの言語能力ということではないですね。

教育長 日本人もちろんそうです。思考力・判断力・表現力が非常に大事な時代になっていますので、その基となる基礎学力は言語ですので、外国籍の子どもの日本語だけではないですね。

丹羽委員 今の授業カリキュラムに道德の時間はありますか。

教育長 道德は教科化され、年間35時間、どの学校も子どもの実態に合わせてやっています。情報モラルも含まれており、時代にあった道德観を養うようにしており、特別活動も従来どおり実施しています。

会長 令和8年度岩倉市青少年健全育成基本方針は原案どおり承認してよろしいか。

全委員 異議なし

（1）令和7年度青少年に関する生活実態調査報告書について

事務局から資料3により説明

丹羽委員 アンケートに回答していない理由がわかれば教えてください。

事務局 回答しない理由としてはっきりしたものはわかりません。昨年度の青少年問題協議会専門委員会でも、委員から少しでも多くの生徒に回答してもらえないかという意見がありまし

た。また、不登校の生徒もアンケートに回答できる環境が整っているのかという意見がありましたので、両中学校にも委員の意見を伝えて、ご協力をお願いしました。

岩倉中学校では、QRコードを載せたチラシを作ってアンケートへの協力を周知したり、声かけをしたりしていただきました。学校と話をする中で、外国籍の子どもには、少し質問内容の理解が難しいところもあるのではという意見をいただいています。

大藪委員 南部中学校では、不登校傾向の子どもたちには学校へ来たときに声かけをしたり、外国籍の生徒には個別に説明しながら、アンケートに答えてもらったりしていたので、回答率は100パーセントだと思っていました。

堅田委員 中学校は義務教育であり、先生方のコントロールができている状態であるのに回答率が悪い。この回答率が悪い状況をもう少し解析しないと、生きたデータにならないと感じる。例えば、問題の数が多いと後にいくほど信頼性が低くなる傾向があることがわかっている。質問の順番を毎年度同じパターンにしない。回答率の悪い質問は前にもってくるなど、工夫が必要ではないか。問題を出す側が、回答の分析だけではなく、なぜ回答率が低いのかどこに原因があるのか、考え方を変えていかなくてはいけない。

また、アンケートに答える中学生側がどういう意見をもっているのか。つまらない質問に回答させられていると思っているのではないか。そういう把握も必要ではないか。

事務局 貴重なご意見をいただきありがとうございます。アンケートの見直しについては、回答率に結果は伴っていませんが、令和6年度の調査では質問項目の順番を入れ替えて、質問をまとまりのあるものにしてみたりするなど見直しています。

質問項目を付け加えたり、一部削除したりしていますが、質問が多いのは一つの原因かも知れません。青少年問題協議会専門委員会に小中学校の先生がおられますので、いただいたご意見を踏まえて検討していきたいと思います。

大藪委員 紙だと回収して確認できますが、インターネットでは、QRコードを読み込んでも、最後まで回答していないこともあるかもしれません。

水越委員 これまで質問項目を少しずつ変えながら10回実施してきました。理想は100パーセントですが、回答率を上げるのはなかなか難しいと思います。なるべく答えられるやり方を検討することは必要だと思います。

教育長 時代が変わりまして、タブレットを利用したアンケートは結構あります。紙で配って回収すれば100パーセントとなりますが、学校現場ではカリキュラムが過密化しており、一斉に実施する時間をとることは難しい状況です。また、最近の学校教育のあり方では、回答していない生徒を厳しく指導することはしていません。ヤングケアラーをスクーリングすることが目的のものなど、100パーセント実施しないといけないものは、チェックしながら実施しますが、このような全体傾向を見る調査では、子どもの自主性に任せているものですので、なかなか100パーセントにいかないと思います。

久保田会長 回答しない生徒ほど、深刻なことを抱えているのではないかという心配があつてのご質問であるかと思う。いただいたご意見を参考にしながら、来年に向けて改善できることはお願いしたいと思う。

鬼頭委員 「家事や家族の世話を日常的に行っている」割合が高いという結果があつたが、市独自でヤングケアラーのアンケートを実施することはどう考えているか。

教育長 市でヤングケアラーの調査を実施することは考えていません。先生たちは、子どもたちの様子を一人ひとり日常的に観察して、少しでも気づいたことがあれば共有して、福祉課につなげるなど、アンテナを高くして対応しています。

鬼頭委員 他の自治体で実施しているところもあるので、今後考えていただきたい。

松本委員 感想として述べますが、「SNS等で知り合った人と実際に会うこと」を「してもよい」という回答があるのを見て、SNSでつながることのハードルが下がっているように思う。SNSは悪いものではないが、使い方によっては犯罪につながるなど危険な面もある。保護者は、子どもがどういうことに使用しているのかを把握しているのか。

今後、SNSに特化したアンケートが必要なのではないかなと思う。例えば、保護者の使用時間が長いと子どもの使用時間も長い傾向があるなど、子どもと保護者の比較ができるアンケートを実施してみるのもよいのではないかなと思う。

4 その他

(1) 情報交換

○江南警察署 鈴木署長から青少年犯罪等の状況について

最近の少年非行は「オンライン上」と「低年齢化」ということがキーワードとなり、大きな問題となっている。大抵がSNSでつながっていたり、不登校状態で学校から目が離れたりして、ずっとSNSをやっている。警察としては、触法少年（14歳に満たないで刑罰法令に触れる行為をした少年）に対して、注意だけでなく必要なら逮捕するという厳しい処分をする方針で対応している。栃木県の殺人事件の報道を見て、自分がトクリュウに加担しているのではないかと少年から相談があり逮捕した事案があったが、危険が身近に迫っているように感じる。

闇バイト、賭博、児童ポルノ、恐喝、強要など、いずれもSNSを利用したものである。

学校へは、早い段階で相談していただくことをお願いしたい。早い段階であれば、学校、自治体などと協力して対応できたのではないかなというケースもある。

○岩倉総合高等学校長 牧委員から最近の青少年の状況について

オンライン上に上がってきたときにはかなりの状況になっている。犯罪行為に当たるものについては、保護者から直接、警察に行っていたりしている。警察では厳しい対応で、学校の役割としては、教育現場として愛情をもって被害者と加害者との調整役をしている。

個人情報の関係もあり一部の関係者で共有するが、全体として学習されないため、同じようなことが繰り返し起きてしまうように思う。警察と連携した全校集会などに参加してくれる生徒は安心していますが、そこに参加しない生徒にどう届けるかが難しいと思っている。

○南部中学校長 大藪委員から最近の青少年の状況について

学校では様々なことがあり顕在化したところから一生懸命対応させてもらっている。本来、学校教育の中では、基本方針にもありますように「育てよう心豊かに」という活動を子どもたちにやっていきたいと思っている。

子どもたちは、積極的に自分たちができることをみつけて仲間に声をかけ、その活動には地域の方にも関わっていただいて、子どもたちの心を温かく育てていただいています。学校現場で

は、いろいろなことが起こりますが、そのことばかりに目を向けるのではなく、子どもたちのこころを温かくする学校をつくっていきたいと思っている。

○その他

松本委員 非行少年になってしまう予兆などがありますか。

警察 警察で対応しているケースでは、学校の指導からはみ出たところであり、万引きや深夜徘徊など早い段階で注意することが大事だと思っている。

松本委員 貧困も原因の一つですか。

警察 貧困は原因の一つでもあり、家庭環境は大きい。貧困だけでなく、壮絶な家庭環境で育っていたり、誤解がないようにと思いますが、外国籍の比率も高く、自分の国でないところで苦慮されていたりすることなどがあるかと思う。

久保田会長 アンケートの結果でも、土日曜日の過ごし方で一番多いのが「ゆっくり休む」という結果があったが、一人でいる時間が長いとSNSなどにはまることになるのではないかと。友だちであったり、部活動であったり、歯止めとなるものが少なくなっているように思う。

牧委員 現状として、部活動は指導者の問題などで縮小傾向にある。学校以外に活動場所を探しても見つけることが難しい状況がある。非行の予兆は、表情やお金の使い方など、普段接している教員や友だちが気づくことがあるが、気づけた生徒が言う勇気がないなど、多感な時期で難しい。友だちがいたり部活動があったりするとよいが、一人で過ごす歯止めがきかないところがある。

丹羽委員 低年齢ほど再犯率が高く、家庭環境がよくない場合が多いように思う。一人でいると静かなのにグループになると変わってしまう。SNSでつながっていると、仲間意識が強く、仲間からの誘いに断れないなど、なかなか難しいと思う。

(2) その他 特になし